

入浴を嫌がる…

⇒機嫌がいいときを見計らって誘いましょう

【 認知症の人の状態 】

とよさと病院 認知症疾患医療センター

認知症の人は、お風呂に入るのを嫌がるのがよくあります。これには、いくつかの理由が考えられます。

まず、入浴そのものが「面倒」と感じている場合です。入浴には、服を脱ぎ、体と髪の毛を洗い、湯船につかり、タオルで濡れた体を拭き、服を着るという、複雑な動作が必要です。これは、認知症の人にとっては、とても混乱をきたす行為です。

次に、一連の行為そのものを組み立てられなくなっているため、それを人に知られたくないと思い、入浴を嫌がる場合があります。嫌がる相手に強くすすめると、いっそう強く嫌がります。

【 対応方法 】

- ①入浴は、機嫌がいいときを見計らって、誘いましょう。そして、家族以外の人に会ったり出かけたりする機会をつくり「身ぎれいにしなければ」という気持ちがわくようにしましょう。
- ②身近な人以外の友人、かかりつけ医、訪問看護師など、第三者からすすめてもらうと、素直に聞いてくれる場合があります。
- ③入浴は、夕方から夜にかけて行うものと思い込まずに、日中やほかの家族に手伝ってもらえる休日の午後など、ゆとりがもてる時間帯に行いましょう。介助者が時間に追われず、ゆったりとした気持ちで行えば、本人も落ち着いて入浴することができます。
- ④入浴の介助をするときは、力を入れすぎないように優しく行いましょう。痛い思いをすると、次回の入浴を嫌がる原因になるためです。
- ⑤デイサービスの入浴を利用してみましょう。

参考文献：杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P88-89

認知症の人と家族の会, 認知症になった家族との暮らしかた, ナツメ社, 2018, P88-91



2022.6作成

⑥家族と入浴するのは嫌でも、親せきや親しい友人と一緒にならばという人がいます。そのような場合は、友人にお願いして温泉や銭湯に一緒に行ってもらうのもよいでしょう。銭湯の中では絶対に目を離さないように、よく頼んでおきましょう。



部屋でできることから始めるのもおすすめです。椅子に座り、お湯を入れたバケツに足を浸したり、首に温めたタオルを当てたり、水のいらないシャンプーで髪を洗うなどして、喜んでもらえたら、「お風呂はもっと気持ちいいですよ」と話してみましょう。

参考文献：杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P88-89

認知症の人と家族の会, 認知症になった家族との暮らしかた, ナツメ社, 2018, P88-91

2022.6作成

ケアのコツ…「答えは一つ」…?



認知症ケアに限ったことではありませんが、介護者が本人の言動の理由や解決方法を考えるときに、「〇〇のほかに考えられる理由は?」「△△以外にできることは?」とその他の可能性に目を向けるようにしましょう。

「答えは一つ」という枠組みがあると、「絶対〇〇だ」「△△するしかない」という風に考えるようになり、ケアを行き詰まらせる要因になります。

参考文献：ペホス, “理由を探る” 認知症ケア, 株式会社メディカル・パブリケーションズ, 2014, P78-80